

平成30年4月27日

地域経済産業調査（平成30年1-3月期）結果

〈全体の動向〉

今期（1-3月期）の近畿地域の経済は、緩やかに改善している。

生産は、はん用・生産用・業務用機械は、海外向け自動立体倉庫装置や半導体製造装置が好調。電気機械は、車載用をはじめとするリチウムイオン蓄電池が高水準で推移。電子部品・デバイスは、好調ながら中国向けスマートフォン用部品が前期と比べ減少。輸送機械は、国内向け乗用車、自動車部品ともに堅調。

設備投資は、維持・更新や生産能力の増強を中心に、多くの企業で当初計画どおり実施されている。さらに、一部の企業では生産能力を向上させるための積極的な追加投資や人手不足を補うための自動化への投資がみられる。非製造業では、倉庫をはじめとする物流施設への投資や、小売業で需要拡大のための新規出店や店舗改装がみられる。

雇用情勢は、人手不足が続いている。パート・アルバイトの確保が困難、技術者・有資格者が集まりにくいとの声が聞かれ、事業への影響も懸念されている。対策として、賃上げ、短時間勤務の導入、女性の活躍、外国人など多様な人材の活用、省力化の推進がみられる。賃金は、人材確保のためのベースアップや定期昇給の実施がみられる。

個人消費は、百貨店は、免税品や富裕層による高額品購入は好調、一時気温が上がらず春物衣料に弱い動きもみられたが足下では回復傾向にある。スーパーは、総菜類が好調だった食料品が堅調。コンビニは客単価の上昇などから引き続き好調。家電は、高機能・高単価の白物家電に加え、携帯電話の買換需要やゲーム機販売が好調。乗用車は、新型車効果の一巡もあり小型車中心に減少。インバウンド消費は好調を維持。

〈個別の動向〉

- （１）生産：横ばい傾向
- （２）設備投資：増加している
- （３）雇用情勢：改善しており、労働需給の引き締まりがみられる
- （４）個人消費：緩やかに改善している

〈これまでの基調判断の推移〉

	平成29年1-3月	平成29年4-6月	平成29年7-9月	平成29年10-12月	平成30年1-3月
全国	→	→	→	→	→
	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している
近畿	→	→	→	→	→
	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している

（参考）今回、本調査の対象機関（101）、実施期間（平成30年2月28日～3月27日）

（本件のお問い合わせ先）

近畿経済産業局総務企画部企画調査課長 前田

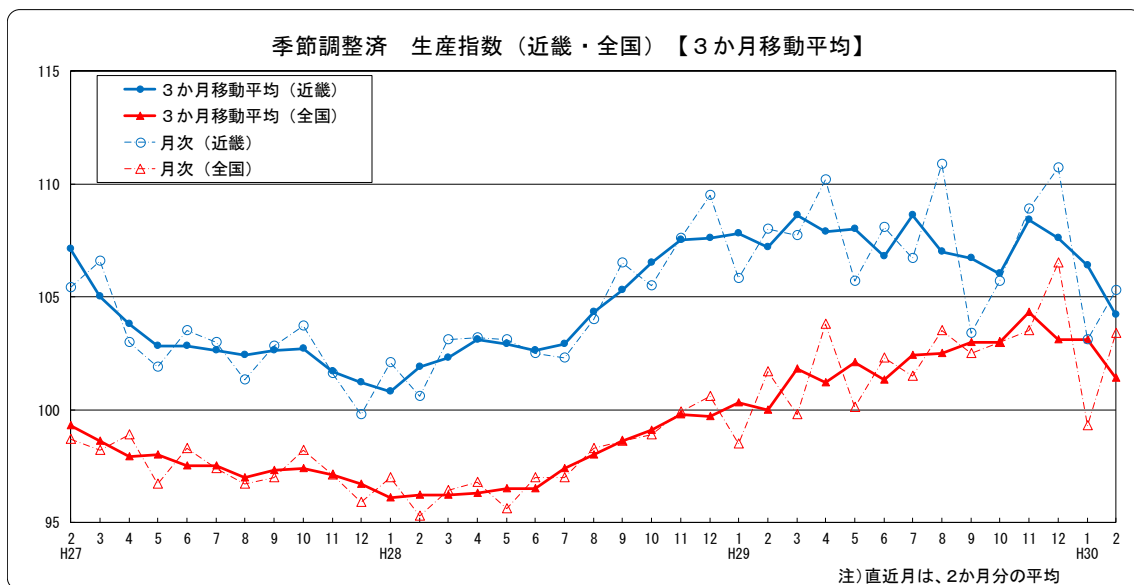
担当：山口、坂倉 電話：06-6966-6004

生産 ～横ばい傾向～

はん用・生産用・業務用機械は、海外向け自動立体倉庫装置や半導体製造装置が好調。電気機械は、車載用をはじめとするリチウムイオン蓄電池が高水準で推移。電子部品・デバイスは、中国向けスマートフォン用部品が前期ほどの伸びがみられなかった。輸送機械は、国内向け乗用車、自動車部品ともに堅調。総じて生産は高水準で推移しているが、生産ラインをフル稼働しても受注に追いつかない、受注は好調だが部品の確保が難しいとの声も聞かれる。

【企業の生の声】

- 自動立体倉庫装置等、受注残を含めた発注対応でフル稼働でも追いつかない。海外向けがとくに好調であり、業績もそれに連動して伸びている。部材不足が厳しく人がいても部材がなく作業ができないケースもある。 【業務用機械器具】
- 主にパワーショベル向けで売上は前期から多少減ったが、主として営業日数によるもの。これ以上生産を増やすのは難しく、断らざるをえない状況。 【生産用機械器具】(中小)
- カーナビやセンサ、カメラ等の車載用機器が好調。車載用リチウムイオン蓄電池では増収増益となっている。 【電気機器】
- 需要に供給が追いつかない状態。全体としては非常に好調であり、海外携帯端末事業者に関する報道もあったが想定内の範囲。 【電子部品・デバイス】
- 国内外の携帯端末の販売台数の減少で下がりはしたが、自動車関連、産業機械関連の需要の高まりにより全体としては好調。 【電子部品・デバイス】
- 主要取引先に引っ張られて好調。設備はフル稼働状態であり、設備投資により生産効率も上がっている。 【輸送用機器】(中小)
- 自動車、建機、産機、半導体関連全て底堅く好調だが、原料コスト高により利益は圧迫。中国での需要が旺盛で、最近では産業用ロボットがブームとなっている。 【鉄鋼】
- △設備のフル稼働状態が続いており、悪くはないが絶好調という感じではなく頭打ちの様相を呈している。 【ゴム製品】



(注) 近畿・全国：平成22年基準(平成22年=100)

データ出所：近畿経済産業局「近畿地域鉱工業生産動向」

設備投資 ～増加している～

製造業では、設備の維持・更新や生産能力の増強を中心に多くの企業で当初計画どおり設備投資が実施されている。さらに一部の企業では生産能力を向上させるための積極的な追加投資や人手不足を補うための自動化への投資がみられる。非製造業では、倉庫をはじめとする物流施設への投資や、小売業で需要拡大のための新規出店や店舗改装がみられる。

【企業の生の声】

- 設備投資案件は、予定どおり順調に進捗している。29年度はスマートフォン関連の増産のため追加投資を行った。 【電子部品・デバイス】
 - 29年度はほぼ計画どおりに定期整備による更新を実施。30年度については大型投資の予定はない。 【石油・石炭製品】
 - 昨年9月に計画どおり、CAMシステムやプリンターを導入。29年度は生産能力の合理化と向上を目的とした設備投資。 【繊維工業】(中小)
 - 本社や情報システム系の投資は減少したが、工場の設備を増設。30年度は本社のシステム更新を中心に増加する見込み。 【生産用機械器具】(中小)
 - 3年間で大型の設備投資を計画。中小型の倉庫を大型倉庫に再編する。今後も引き続き人手不足が懸念されることから、省人化設備を増やすことでコストカットと作業効率アップを期待。 【道路貨物運送業】
 - 軽減税率に対応したレジを全店に導入。それ以外の投資内容は既存店舗の改装、業態変更が中心。冷凍食品製造工場の新工場の土地取得費用と建設費用が発生した。 【飲食店】
- △昨年度は端末導入などの投資を行ったので、29年度はシステム関係の投資がない。今後は小規模店を閉鎖し、大型店舗を新規出店する。 【各種小売業】
- △29年度は28年度から減少の見込み。工場建設分が減るものの、それ以外は前年とほぼ同じ水準。上期に予定どおり5店舗、下期2店舗の改装を行った。改装には、ほぼ新店を作るぐらいの額をかけている。 【各種小売業】

全国企業短期経済観測調査

(前年度(前年同期)比:%)

	近 畿						全 国					
	平成29年度 (見込み)			平成30年度 (計画)			平成29年度 (見込み)			平成30年度 (計画)		
	上期	下期(見込み)		上期(計画)	下期(計画)		上期	下期(見込み)		上期(計画)	下期(計画)	
全産業	9.6	12.5	7.4	1.8	12.2	▲ 6.1	4.0	2.3	5.4	▲ 0.7	8.1	▲ 7.3
製造業	14.4	18.8	10.8	3.6	11.2	▲ 3.0	6.5	5.0	7.8	6.0	16.7	▲ 2.3
大企業	15.2	19.1	12.1	2.5	10.7	▲ 4.5	7.3	4.4	9.7	4.9	13.9	▲ 1.9
中堅企業	10.1	27.7	▲ 4.1	22.5	16.9	28.5	12.8	15.4	10.7	15.6	31.3	3.1
中小企業	2.1	▲ 3.8	7.7	▲ 4.4	12.4	18.8	▲ 2.2	▲ 2.4	▲ 2.1	▲ 0.1	11.3	▲ 9.9
非製造業	6.1	7.5	5.2	0.4	13.1	▲ 8.3	2.7	0.7	4.1	▲ 4.5	3.0	▲ 10.0
大企業	6.8	5.6	7.6	▲ 0.4	19.9	▲ 13.4	4.0	0.1	6.8	0.8	12.1	▲ 6.9
中堅企業	6.8	23.0	▲ 5.0	2.4	▲ 17.3	21.0	7.7	▲ 1.8	15.4	▲ 1.7	7.1	▲ 7.6
中小企業	▲ 15.4	▲ 4.5	▲ 26.9	16.5	▲ 9.2	52.3	▲ 5.1	4.3	▲ 12.6	▲ 25.0	▲ 25.4	▲ 24.7

データ出所: 日本銀行(含む 土地投資額)

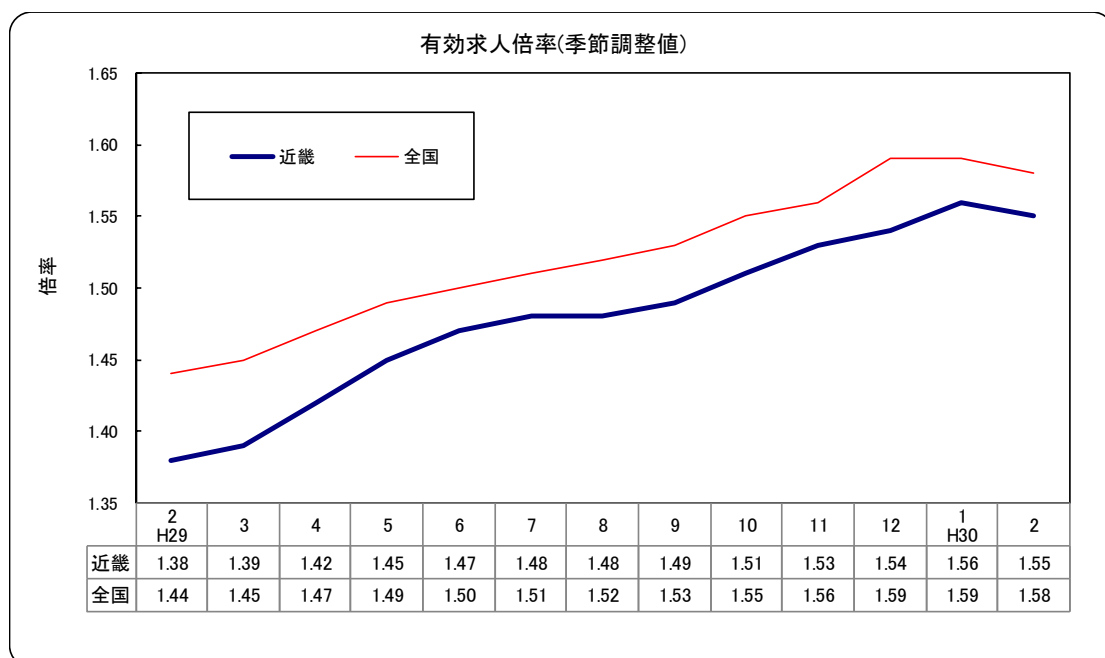
(大企業: 資本金10億円以上、中堅企業: 同1億円～10億円未満、中小企業: 同2千万円～1億円未満)

雇用情勢 ～改善しており、労働需給の引き締まりがみられる～

人手不足が続いている。小売業やサービス業を中心にパート・アルバイトの確保が困難であり、また製造業を中心に技術者や有資格者が集まりにくいとの声が多く聞かれ、事業への影響も懸念されている。対策として、時給アップ、短時間勤務の導入、女性の活躍、外国人など多様な人材の活用、省力化の推進がみられる。賃金は、人材確保のためのベースアップや定期昇給の実施がみられる。新規採用は、さらなる競争の激化を指摘する声が聞かれる。

【企業の生の声】

- ・パート不足の状況に変わりはない。特に新規オープン時が苦しく、不足分は派遣で補っているものの、オープンから1年経過してもパートが集まらず派遣利用が続いている店舗もある。 【各種小売業】
- ・人員不足によりテナント出店をためらう動きも引き続きみられる。 【各種小売業】
- ・3DCADで設計管理ができる人材が関西に少ないため、東京に部署を移した。 【生産用機械器具】
- ・生産管理部門の残業が多いことから、事務作業をペーパーレス化する管理用システムを開発中。 【鉄鋼】（中小）
- ・賃上げを予定している。最近では中国沿岸部の方が賃金は高く、このままだと人材流出の可能性がある。 【電気器械】（中小）
- ・建替開店した店舗上階に、保育所を設置。応募しやすくなったという声もあり、実際に若年層のパートを集めやすくなった。 【各種小売業】
- ・現地の人材派遣会社を使って、タイやベトナムから20名程度採用。最終的には40～50名採用したい。また、タイにある子会社の工場から研修生も受け入れている。 【ゴム製品】
- ・31年度も30年度と同程度だが、本当はもっと採用したい。人材確保のため高卒採用を再開した。 【機械器具小売業】



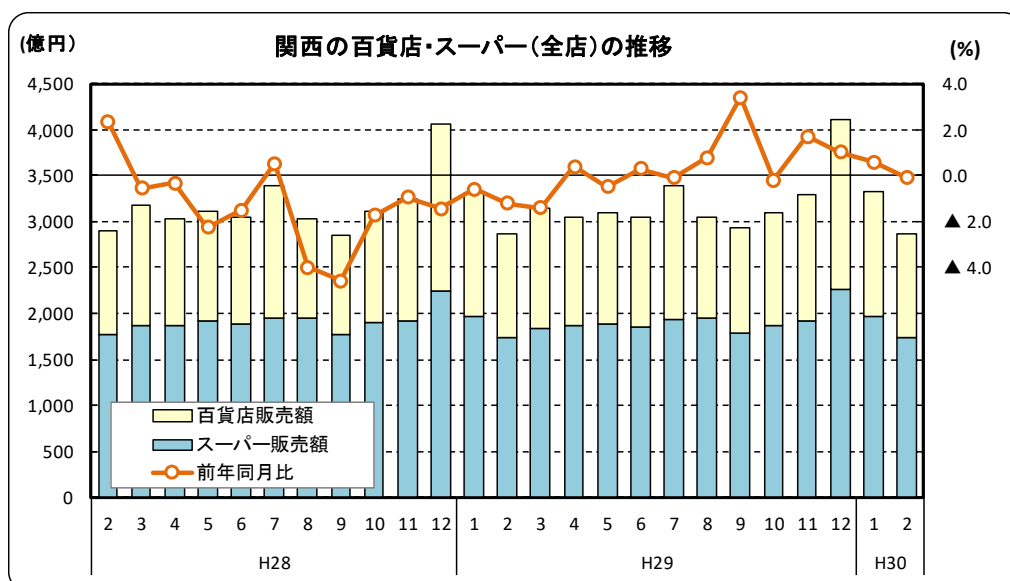
データ出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

個人消費 ～緩やかに改善している～

百貨店は、免税品や富裕層による高額品の購入は好調、昨年より低気温であった期間は春物衣料に弱い動きもみられたが足下では回復傾向にある。スーパーは、総菜類が好調だった食料品が堅調。コンビニは客単価の上昇などから引き続き好調。家電は、高機能・高単価の白物家電に加え、買換需要が発生した携帯電話やゲーム機が好調。乗用車は、新型車効果の一巡もあり小型車を中心に減少。インバウンド消費は好調を維持。

【企業の生の声】

- 重衣料が高伸した婦人服や、高額アイテムの動きがよいラグジュアリーブランドが好調に推移。また100万円以上的高額品は、国内・インバウンドともに好調。富裕層の消費マインドは改善が続いている。 【各種小売業】
- 野菜相場が過去最高となり一点単価の増加した農産や、揚げ物・米飯が好調な総菜は堅調に推移。 【各種小売業】
- ドラッグストア等との競争激化もあり客数は落ち込んでいる。カウンターコーヒーや揚げ物などが好調。客単価は上がっている。 【各種小売業】
- 携帯電話や白物家電は買い換え需要もあり好調。テレビは有機ELや4Kの割合が増加。エアコンは、省エネ・多機能タイプが人気。 【機械器具小売業】
- LCCの就航・増便による影響でインバウンド客が増加。例えば城崎には、アジアのみならず欧米からの客も多い。今年は4月の京都の桜を観るツアーが特に人気。 【生活関連サービス業】
- 主にインバウンド需要と新店効果により前年比プラス。国内向けも、悪かった調剤も回復し、ヘルスケア関係は良い。ネット販売も好調。 【各種小売業】
- △2月は気温が低く推移し、春物商材の動きが鈍かったが、3月は気温上昇とともに衣料品等の動きが回復している。賃上げ等の話は聞くが、中間層の消費が伸びている感じはない。 【各種小売業】
- △秋以後は新型車の効果も一巡して前年を下回る状況。株価の乱高下などでマインドが冷えれば、低調な状況が続くのではないかと。 【その他事業サービス業】



データ出所：近畿経済産業局「百貨店・スーパー販売状況」